

第5 回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

■日時：平成27年9月15日（火）午後1時30分～午後4時00分

■場所：吉野町中央公民館5階 閲覧室

■出席者：第5 回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 出席者名簿のとおり

1. 開 会

2. 会長挨拶

■会長挨拶：

- ・こんにちは。第5 回目となりまして、9 月中にまとめていきまして、遅くとも10 月中に完成させたいということで、今日につきましてもワーキンググループのことなど、活発な議論をしていただければと思います。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

3. 案件

(1) 前回の議事録の確認

■事務局より、資料1 をもとに説明。

◎会長：本議事録案をもって、公開対象としてよろしいか。

→全委員異議なく、承認。

(2) 各ワーキンググループの進捗状況の共有について

■事務局より、資料4 をもとに説明。

- ・吉野山地域においても住民主導でワーキンググループを作りたいとの話があった。
- ・新たに観光振興 WG が発足した。

◎木工振興 WG：

- ・前回の推進会議以降、3 回の会議を重ねた。
- ・前回示した問題点や課題は、5 つで同じである。
- ・木材産業がうまくいっていないのは、木が使われないからであって、使われない理由がある。木が使われない理由を一つ一つ使える理由にしていこうということが大きな目標である。
- ・一つ目の吉野材については、良い部分の見える化をすることで他の産地に比べて優位性があるかを調べたいが、試験方法や研究機関との連携も必要になることから、民間だけではうまくいかないと実感している。
- ・吉野の美しい木の家の集合体、モデルタウンを実現していけないかと考えている。地元で実現して、パッケージ化して周囲の自治体などにも営業をかけていけないかと考えている。これについては、商工会の事業としてスタートした。これから3 年計画でモデルを作っていく。1 年目には2 カ所ほど視察を予定しており、木の家の集合体を先進的に作っているところに行ってくる。
- ・3 つ目の木育については、木育の施設があった方が良いという意見は多数いただいている。町内では、各団体などが実際に木育に関する活動をいろいろしている。これらの情報をまとめて一元管理して、発信していくことで町内町外に向けて吉野が木育に取り組んでいることがわかる。し

かし、現状は個別にしているのもう一度、情報を整理して、まとめて情報発信していくことが第一歩かと考えている。現在、今後の動きを模索している。

- ・ 4 つ目の樽、桶については、以前お伝えしたとおりであるが、今、大型の木製水槽、受水槽といわれるもので、大きな施設になると水槽などに貯水して水を供給することが必要になってくるため、受水槽が必要になる。ほとんどの場合は、ステンレスやプラスチックになっているが、この10年くらいで木の水槽が増えてきている。日本全国で見るとかなりの実例が出てきている。大きさは、直径4 m 高さ4 m ほど。大淀町福神に建設中の南奈良総合医療センターでは、木製水槽を作っているところであり、地元の材を使っている。木を使うと強度が心配されるが、東日本大震災のときでも木の方がステンレスなどよりも強度が高いと証明されている。四角だと水の逃げ場がなくなり、水槽が倒れてしまう。木製水槽は側面が丸くなっているのも、水が水槽内で回り、振動に対して強い。震災のときでも木製水槽があったところは、2、3日分の水が供給できたという例もある。これらのことから、今後有望な分野である。また、材料も機械加工が可能であり、材料もシンプルであることから製材所も対応しやすいと思われるので、これから進めていきたいと考えている。
- ・ 最後に職人であるが、民間では進めることが難しいところがあると実感しつつある。大工育成塾があり、10年くらい活動をされているが、今年で募集を締め切ることになっている。その後の受け皿として何かできないかという発想はあり、必要性も分かっているがどこまでできるか、大きい話でもあり、模索段階である。
- ・ この5つの分野を複合的に進める必要がある。最後に木の仕事をすることが誇りに思えるような地域にしていきたい。小さい子どもが大きくなったら貯木で木の仕事をしたいというような地域になるように少しずつでも進んでいこうとWGで話している。

◎木の子WG：

- ・ 9月8日に木村先生に入ってもらって3回目のWGを開催した。
- ・ 9月中旬に登録できればと手続きを進めている。
- ・ 木の子文庫の活動のものは本なので、法人名は「一般社団法人木の子文庫」に決定した。
- ・ 地域おこし協力隊の募集を9月初旬にかけていただき、昨日、千葉県船橋市から1人お越しいただき、お会いしたところである。
- ・ 本のある空間が今までの活動の元になっている。今までもそこから繋がったり、広がったりしてきたことから、法人化以降もその活動を続けていく。現在、奈良県地域貢献活動助成事業に応募し、全4回の活動を予定している。
- ・ 「吉野葛の魅力から元気の源 GET」、「悠久の吉野を歩いて思い出を木に刻みませんか？ 大海人皇子起死回生伝承の魅力から元気 GET」、「吉野杉・桧の香りと手触り感の魅力①から元気 GET」、「吉野杉・桧の香りと手触り感の魅力②から元気 GET」の4つの企画を予定している。
- ・ この企画をもとに国栖WGや木工振興WG、事業継承WG、スポーツ振興WG、それぞれのWGに相談やお願いに行きたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

◎国栖の里振興 WG :

- ・ 8 月 3 1 日に工房関係者も交えて開催した。
- ・ 1 0 月 1 0 日に国栖の里観光協会で古の里ウォークを開催するが、それまでに間に合わせるべく看板を設置するように進めている。
- ・ 主要ポイントにマップと説明看板を設置できるように進めていきたいと考えている。
- ・ 奈良県南部東部振興課の「南部・東部地域魅力創出モデル検討事業」の会議を併せて進めていくが、国栖の里 WG を引き続いて進め、3 0 名程度の規模で進めていきたいと考えている。若い方にも入っていただいて進めていきたい。
- ・ 廃校舎跡地の利活用による地域の賑わい再生を 1 番の目的として検討を進めたい。
- ・ 木村会長の方から、国栖の工房の方と話がしたいということで9 月7 日に意見交換をした。木村先生に国栖のいろんな方の想いを知ってもらう良い機会になったと感じている。
- ・ 廃校舎を来年撤去するというので、国栖地域の方に里に帰ってきてもらおうと国栖の大運動会を復活したいと考えている。国栖にもう一度帰ってきていただいて、国栖の現状を見ていただいて、そうした中で今後の国栖について、皆が真剣に考える機会になると思う。

◎事業継承 WG :

- ・ 9 月 3 日に三寄楼で会議を開催した。
- ・ 前回の会議で報告したが、ポイントを絞って取りくんでいこうとしている。上市地区を活性化していくためにどんな事業ができるか、特に上市商店会を復活させていくというところ、上市で新しくできている拠点をもどのように使っていくかが会議の一つの項目である。
- ・ それに関連して、NPO 法人空き家コンシェルジュが事業として、新規起業、創業の支援をしており、地域を上市地区に絞ってチャレンジショップを開催したいと事業を進めているという話をいただいた。
- ・ 2 月 1 1 日の初市の日を目指して、その一週間前くらいから一週間程度チャレンジショップをしようという話があった。
- ・ それに対して何かできないかという話をこれから進めていきたい。
- ・ 3 0 名程度が空き家コンシェルジュのセミナーに来られていて、上市でのチャレンジショップについて希望者も多かったと聞いている。それを起爆剤として、上市や吉野町内で店舗を開くという流れになれば、尚良いと思うので、そのあたりを煮詰めていきたい。
- ・ 上市で朝一もやっというところで、継続して議論し、いつの時期にどれくらいやるか、どの場所でやるかなど、煮詰めていきたい。
- ・ もう一本の柱であるが、事業所の調査、および後継者についてのヒヤリング調査を商工会の方でアンケートを取りたいということでアンケートのたたき台を作成した。
- ・ 仕事のこと、要望や従業員、働き手が欲しいかどうかなどを書き加えてはどうかとの意見もあり、まだ作成途中のアンケートである。推進会議の委員にも見ていただいて、事務局の方で意見などもとりまとめていただいて、商業事業者が何に困っているのか、事業を続けるためにはどんなことをしていけば良いのかなど、そういうことが聞けるようなアンケートを取りたいと考えている。忌憚のないご意見をいただいて、良いアンケートを取りたいと思うので、ご協力をお願いしたい。
- ・ 職人、従業員、右腕という方を育成したいという方が多いのではないかと考えている。実際に若

手の従業員に技術や技を継承していきたいという意見があり、何らかの助成をしながら、外から働き手と呼んで、技術を学ばせて、住んでもらって、仕事をしてもらおう。そういう事業所も少なからずあると思う。そのような施策がないか事務局に調べてもらおうと実際にそういう施策がある。そのあたりも継続して検討していければと思っている。

- ・地方創生セミナーは、事業継承 WG で検討していることそのものであるため、事業継承 WG 主催で開催させていただくので、ぜひ参加していただきたいと思う。

◎スポーツ振興 WG :

- ・基本目標を最終的に決めて、それに対してどう取り組んでいくかを検討することを目的に WG 開催した。
- ・スポーツクラブでは、8月29日に中学校と連携して、200数十名の参加で防災とスポーツを関連させてカーニバルを開催した。
- ・アンケートを取ったところ、中学生と高齢者がランドゴルフをしたり、小学生と保護者ドッジボールをしたが、中学生から楽しかったとの意見が多かった。世代間の交流を活発にして、いろんなところでつながる、支えることを実現できればと感じている。
- ・基本目標を見たときに外からも目を引きつける言葉が欲しいとの意見もあり、吉野だけで固まると外からは入ってきづらいとの意見もあった。
- ・篠山市で吉野出身の方に出会い、篠山市の人口減少への手立てが非常に良いと感じて、住まわれていると聞いた。吉野と同じようなまちに住まれている方がいて、吉野にとっては残念なことだと感じたとの意見があった。
- ・運動公園では土日の活動は盛んであるが、平日は空きが多いことから平日の空きを利用したことを外に向けて発信していけないかとの意見もあった。
- ・療養施設で読み聞かせをやっているが、スポーツと連携して何かできないかとの意見もあった。
- ・いろんな団体などと連携して、みんなで元気になっていこうとする取り組みや住んでいる方が元気に楽しくなり、外からも魅力的に見えるまちづくりを行い、吉野に来ると心も身体も元気になる、そんな町を目指すということから、基本目標を「元気な心と身体が育つまち」にすることで WG としてまとまった。
- ・そのためにもどうするのかということで「つなぎ、支えあいまち」づくりをしていく。また、森林セラピーは民泊が似合うのではないかという意見もあり、もっと民泊ができるところが増えれば、日帰りでセラピーに来る方が宿泊してくれるのではないかとの意見もあった。
- ・いつでも、だれでも、いつまでもスポーツに親しめるまちなどを目指すべきまちの姿として、今後どのような取り組みを行っていくのかを次回の以降の検討テーマとすることとした。

◎観光振興 WG :

- ・推進委員のご承認をいただいてから、新しい WG を立ち上げようと考えていたが、10月末に意見をまとめていかなければならないということで、進め始めている状況である。吉野山も外から見れば派手なところに見えるが、春だけがシーズンで、他の時期はオフシーズンという状況である。若い方も年から年中仕事に携わりたいという方も定年になるまでは、外で勤められて、定年後に戻ってきて店をするという方が多い。それを打破したいということで若いメンバーを中心に

WGを作りたいとなっている。まず、そのことについて承認いただけるのか確認したい。

→全員承認。

- ・進捗状況報告の中にあるとおり、8月31日と9月4日に会議を持っているが、メンバーは20代～30代が中心である。その方の親の世代が、観光協会長や副会長をしており、年間の行事をすることに精一杯で新しく吉野をどう作っていかうかという議論をするまでに至っていない。
- ・木村先生の話の聞いたり、まち・ひと・しごと会議やWGについて話を聞いたりして、自発的にこのグループに加えてほしいと若手から要望があった。このWGのリーダーにはなれないが、何かあった時、もめ事になった時などに相談できる相談役のような形で応援しましょうということにしている。
- ・観光振興WGの会議を始めて、課題や問題点を洗い出し、今後どのような取り組みをしていかうという話し合いを進めつつある。
- ・いろんな方の意見を聞きながら、年中人が訪れる、学校を卒業したらすぐに店を始める、やっていける、生計を立てられる吉野山にしていきたいという意気込みでやっているの、よろしく願いたい。

(3) 吉野町人口ビジョンについて

■事務局より、資料2をもとに説明。

◎委員：

- ・資料2の15ページの特化係数は何分の何で計算されているのか。

◎事務局：

- ・本町の就業者比率を国における産業分類毎の就業者の比率で割って算出した数値である。よって、1.0を上回ると全国的に見て、吉野町において特徴あるものとして見ることができる。

(4) 吉野町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

■事務局より、資料3を元に説明。

◎委員：

- ・WGメンバー分も総合戦略のたたき台を用意してもらえるのか。

◎事務局：

- ・用意するので、WGの中でも意見をいただきたい。

◎委員：

- ・現時点でもWGの意見は盛り込まれているのか。

◎事務局：

- ・各WGの皆さんの想いが反映されているのか確認いただきたい。こんな内容を盛り込んでほしいなどのご意見もいただきたい。例えば、木の子WGについては、17ページの「みんなで支

え合い安心して暮らせる地域社会の形成」の「子どもから高齢者まで多世代が集えるまちのえんがわ（地域の憩いの場）を形成します。」に反映している。「本を通じて・・・」などの表現を入れるかを検討したが、現状は入れていないので、そういったご意見もあればいただきたい。

◎委員：

- ・自分たちのやりたいことがいろんな所に出てくることもある。

◎事務局：

- ・そうである。基本的な目標は4 つにしてある。自分たちのやりたいことがどの基本目標に紐付いていくかを検討していただいて、どこに落とし込むかを検討していただきたい。
- ・5 ページに記載しているが、総合戦略の進捗管理については、この推進会議において点検、検証を行い、必要な対策の追加、見直しを検討していただくこととしている。第1 回の推進会議で説明させていただいたが、推進会議の委員任期を3 年としている。この戦略を作って終わりというわけでは決していない。皆さんの想いは、この計画にその都度反映し、予算措置をして、役割分担を行い、実践していくものであるのでよろしくお願いしたい。

◎会長：

- ・お気づきの点がありましたら、後日でも結構なのでお願いします。各 WG の中で確認していただいて、こういうことを盛り込んでほしいということがあればよろしくお願いしたい。
- ・本日、ご発言いただいた委員もいただいていない委員も何かご発言いただければと思う。先ほどの WG の報告の補足でもかまわない。

◎委員：

- ・事業継承 WG にも出ていただいているので、会議で出た想いなどもちりばめていただいている。これを WG にも持ち帰ってきちっと話し合いたいと思う。
- ・アンケートを取ってみて、新たな項目や気づきが出てくると思うので、改めて相談したい。いつまでに作成しないといけないということもあると思うが、随時足していただければ良いと思う。

◎委員：

- ・まだ深く読めていないが、よくできていると感じている。総合戦略にも記載があったが、住民参加や住民一体ということは、言葉だけではなく、観光振興 WG も地元の方から自ら声が上がって発足したということは、押しつけではなく、自分たちでなんとかしなければならぬという気持ちの表れである。ぜひ、この戦略が成功するものになればと思う。

◎委員：

- ・私事だが、小学校の同級生で高校から吉野を出て、大阪に勤めていて、大阪に住んでいるが、家が上市にまだある。壊して駐車場にするにも負担がかかる。吉野町の活動を聞いていただいて、実際に役場協働推進課の担当者と空き家を見に行った。空き家コンシェルジュにも相談に行かせていただいたが、思ったよりも良い物件で、これは住んでいただけると感じている。空き家コン

シェルジュの代表の方には、吉野は恵まれていると言われる。吉野より川上に行くとアクセスの問題もあり、住むところが限定されていると言われる。近鉄電車が通っているだけで、吉野に来たいという方は多くいらっしゃると言っていた。問題は仕事である。空き家コンシェルジュは仕事を斡旋できないので、住まいと仕事をセットで事業継承 WG の中で提案ができればと前回の WG の中で話をさせていただいた。そんな流れも戦略の中に盛り込まれているので、ありがたいと思っている。

◎委員：

- ・総合戦略の9 ページのところは全てに自分が関係している。新しい住環境のパッケージというところは、商工会の全国展開事業を今年度からスタートする。いろんな製造元がいっしょにやっついこうということで、パッケージ化していろいろ使ってもらうことが住環境の整備に繋がる。国栖の里の伝統産業、歴史、文化、自然に研きをかけて地域の活性化をするということは、世界に発信していくということである。まず、人に研きをかける、もっと勉強していかないといけない。10月10日以降に教育委員会に協力していただいて、地域を掘り起こして勉強会を開催しようと考えている。小学校跡地については、桜井市でオープンしたオーベルジュの視察などもしたいと考えている。桜井市でうまくいくのであれば、国栖でもうまくいくのではないかと考えている。10月10日に古の里ウォークを地元の語りべが説明をして歩いていただくコースを設定しているので、木の子文庫の方も参加していただければと思う。

◎委員：

- ・10月10日に古の里ウォークを予定している。昨年も予定していたが、実施できなかった。おもてなしというところに力を入れて、地域でできた黒ニンニクや地域でできたきのこのお弁当など、様々なおもてなしを予定している。県南部東部振興課の事業についても、国栖において待ったなしで進んでいる。国栖で実施していただくことを光栄に思っているし、がんばらないといけないと感じている。箸産業は、国栖にこだわらない。貯木でも空き工場があればできる。需要が上がっているのはたしかであるが、生産する力がない、材料もない。それをどう克服していくかが事業継承にも繋がっていく課題であると思う。製箸組合としては、がんばっていききたいと思っている。

◎委員：

- ・この取り組みはこれから始まって、まだ先が長く時間がかかると思う。いろんな人と話す度に知らなかったことがあると感じる。いろんな資料や情報が入ってくる体制は、ぜひ作っていただきたい。いろんな視察旅行など、いろんなまちづくりを見てきた方もいると思う。できるだけ広い人に情報として伝わるような方法を検討していただきたい。自分自身も見に行きたいと思うが、そういうシステムを行政で考えていただきたいと思う。

◎委員：

- ・国栖の古の里ウォークは文庫の開館日であるが、調整して行かせていただこうと考えている。先ほどの情報の共有について、木村先生の人財塾に参加したが、その中のワールドカフェの中で常に出てきたのが情報の共有であった。あちこちでやっていることの情報が入ってこなかったのも、

わからなかったことや、わかっていれば両方で発信することができたなど、そこは大事であると感じている。居場所が必要との意見も出ていた。私は国栖マラソンが好きでずっと参加していた。大運動会もだが、国栖マラソンも復活していただきたいと願っている。

◎委員：

- ・吉野高校の吉野町活性化に向けた取り組みを紹介する。地元吉野町のことを調べて、全国に発信していこうと吉野調査隊が立ち上がった。指導していただいている先生が、吉野町出身の小学校、中学校、高校と吉野で学ばれた先生が中心になって、地元を盛り上げたいということで立ち上げて、取り組みを始めている。7月23日に県内の農業系の高等学校が集まり、その場面でこの取り組みを発表させていただいた。パワーポイントを使って、10分の持ち時間で発表し、最優秀賞を受賞した。奈良県代表として、滋賀県彦根市で行われる近畿大会に出場している。このような実績も町長に認めていただき、吉野町後援として活動している。割り箸を使って、吉野高校の持っている設備を使い、文様割り箸を作っている。新聞社やテレビ局にも取り上げていただいている。これがグッドデザイン賞にも選ばれている。吉野町の商品に付加価値を付けて、高校生目線で吉野町をPRしていく。これをスタートとして、吉野町の地場産業に高校生が関わることができれば良いと考えている。また、高校生の取り組みを10分間程度、この会議の場で発表させていただき、高校生の活動を知っていただきたいと思う。奈良県の教育長が吉野高校に來られ、吉野の取り組みも説明させていただいた。総務省大臣官房企画課企画室から吉野の林業にスポットをあてて、地域の基盤産業を強化するために現在調査に入っておられる。全国で5つの地域が選ばれている。吉野高校森林科学課のことについて、詳しく聞きにこられた。本校にも風が吹いてきたと感じており、希望を持ちながらやっていきたい。

◎委員：

- ・夏休みに体験したことであるが、郡内の10人ほどの教員で大阪の内田洋行の展示会場に行ってきた。目的は、ICT進んだパソコン、近未来の教室などを見たり、体験したりさせていただくことである。配られたパンフレットに本校で取り組んでいる木の机が掲載されていた。また、近未来の教室のレイアウトには、吉野材を使ったパーテーションや壁が使われていたり、お話の中には、吉野町の方の話も入れてくださった。近未来の機器に出会いにいったところ、改めてそういう場所で地元のものに触れさせていただくと、良い物だと再認識させられた。

◎委員：

- ・総合戦略のたたき台を持ち帰り、WG委員の方の意見交換させていただきたい。木の需要拡大は、そんなに順調に上がっていくものではなく、住宅市場自体が小さくなっていくので、その中でどうやって生き残っていくのかという点では、数字では表せない部分もある。工場やそこで働く人の数なども含めて、何かできればと感じている。この中でも触れられている木育や遊育の推進については、必要な部分だと思うが、施設を作るというよりは、まず人材の育成とネットワークをきちんと作って、吉野に來たら毎週末何か木育に関することをやっているということが1年、2年できて、施設を作っていくことができれば、うまくいくのではないかと思う。

◎委員：

- ・夏になると、吉野山はもともと修験道の行者の方が多かったが、それもおじいさんやおばあさんが夫婦で来られる程度であり、林間学校も昔はたくさん来ていたが、今はほとんど来なくなった。虫取りや川遊びで来ていた家族連れも今は少ない。言い訳をすると信州のあたりではドッグランがあったり、ボートで遊べたりする。ただ、大阪の方が信州に行くよりも吉野でも川もあるし、他の自然もあり来てもらえる環境にあるが、努力不足の感も否めない現状があり、人が来ない。木工振興WGでも観光に結びつくような、例えばツリーハウスを作って家族連れに来てもらってはどうか、吉野山の如意輪寺の山の方にツリーハウスができれば、家族連れが泊まりで来られて、町を散策していただくこともできるのではないかと思う。やりようによっては、異業種が交流しながら、お互いに売上げを伸ばす方策ができるのではないかと感じる。新しくできた吉野山の観光振興WGがどんどんアイデアを出して、将来に繋がるのではないかと思う。

◎委員：

- ・総合戦略たたき台の中に吉野高校、東京農業大学との連携を強化し、将来の吉野の産業を支える人財を育成しますとあるが、今最も大事なことは人財育成であると思う。今、技術を持っている方がやめようとしている。やめてしまえば、技術はなくなってしまふ。それを継承させなければならぬ。継承させるには、1年2年では難しい。技術を繋いでいくためには、誰でもいいというわけでもなく、少しでも興味を持っている人の方が飲み込みも早い。自分の考えもあり、スキルアップをして、技術を継承できる。吉野高校の中も見ることがないが、素敵な機械もいろいろ持っており、教える方もいるので、貯木で働いている人が勉強させていただく機械もあると思う。今ある技術をなくならせるのではなく、継承していければいいと思う。

◎オブザーバー：

- ・感想になるが、話を聞いていて一番多かったのが、人づくりや人財育成であったが、私も同感である。戦略にも書かれているが、いくらハードを充実しても、そこについてくる人がいないとどうにもならないのでおっしゃるとおりかと思う。県として、移住交流や人口を増やす手立てとして考えていることは、まず始めに認知してもらい、知ってもらい、知ってもらいことで観光や交流に繋がりを、やがては好きになってもらい、住んでもらい、定住に繋がるというステップを県の方で考えている。認知が多ければ多いほど、交流に繋がるので、認知をどれだけ増やすかが重要だと思っており、県としてもいろいろ取り組んでいる。皆様のお話の中で、既に皆様はお気づきになっておられると思うが、情報発信が一番難しい。県もいろいろやっているが、皆様も情報発信、情報共有は大切であると言われていたが、これが難しく、ある意味では永遠の課題ともなる。そのあたりは、県の情報発信も利用して、それぞれ情報発信もして、認知から定住へのステップに進んでいければと思う。

◎委員：

- ・委員から発言があったが、製材や豆腐店、しいたけ栽培をしている方、自分は工務店など、技術を継承するのに、人財塾や職人塾などWG会議でも意見が出ていた。国の方で実践型地域雇用創造補助金というものがあり、それを利用して、人財を募集する団体、受け皿を作って、実際

にそういう塾をやっていけばいいのではないかと思う。他業種が組んで、塾生には将来の選択肢を持たせてやっていくことが必要ではないか。本気でやってみて、助成金もいただいて、事業所としても助けてもらいながら、人財を育てていくことができるのではないかと思う。この会議のメンバーでできればと思っているので、事務局とも相談したいと思う。ツリーハウスの話があったが、近畿大学の学生の有志が、吉野町でツリーハウスを作りたいということで来てくれている。千股で1個ツリーハウスを作っている。自費で木材を買って、自分たちで作っている。23日に完成させるために来ることになっているが、また紹介させていただければと思う。どこかで作る場所がないかと相談も受けている。相談していただきたい。

◎会長：

- ・そういった吉野の木に関わる取り組みということではインパクトはあるかもしれない。
- ・実践型地域雇用創造事業については、10月5日に厚生労働省の室長に来ていただくことにしているので参加していただいて、9月25日には中小企業庁の総括課長補佐にも吉野町に来ていただくことになっている。その中で話を聞いていただいて、質問もしていただければと思う。また、日本銀行の審議役にもお越しいただくが、吉野のデータに基づいて解説をしていただけるのでお聞きいただきたいと思う。

(5) その他

■その他連絡事項等

◎事務局：

- ・総合戦略たたき台及び人口ビジョンを熟読いただき、10月1日（木）までにご意見等をいただきたい。

◎事務局：

- ・次回開催日時 10月7日（水） 午後1時30分～